

ハッピー子育てひろば



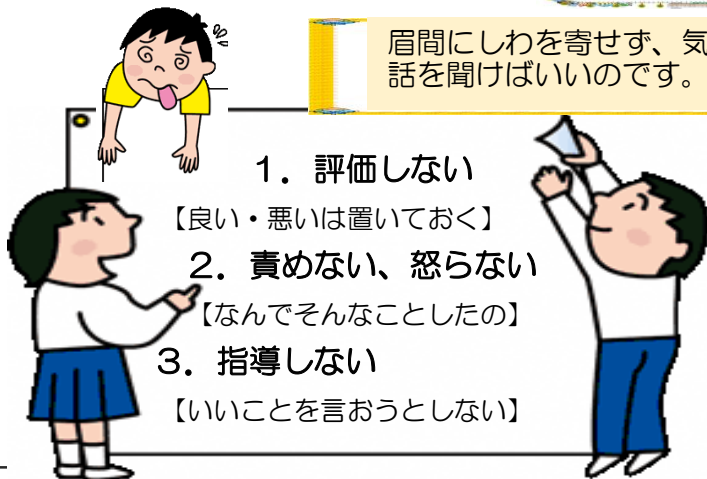
☆プロフィール☆
鈴木 裕美 (すずき ひろみ)
香川大学医学部 小児科専門医

みなさん、こんにちは。最近読んだ本によると、男女の脳の働きは大きく異なっており、特に女は「人の気持ちを察して行動し、共感すること」を思いやりと思うが、男は「任務遂行、問題解決」が思いやりとのこと。妻が忙しく家で動いているのに夫が一人でゲーム。夫は今日も仕事をするという任務を果たして満足です。子どもが調子悪いと話しても「病院に行けば。」と解決策を提示して終了。妻のために必要な情報を与えたと満足です。お母さんたち、夫に察することや共感することを諦め、具体的な任務を与え、任務のデキには文句を言わず、任務完了後には感謝というご褒美を与える。お互いの脳のトリセツを知れば腹を立てることもなくなるかもしれませぬ。ぜひ、「キレる女懲りない男ー男と女の脳科学」黒川伊保子著をお読みください☆

子どもと「話す」3つのポイント

もし話をしても、反対される、叱られる、馬鹿にされる、そもそも真面目に聞いてくれないとしたら、あなたはその人に話をしますか？それに、怒られるとわかっていたら、秘密にしたり、嘘をついたり、ごまかしたいと思うのは自然です。子どもも同じです。子どもに安心して話してもらうポイントは3つです。

眉間にしわを寄せず、気楽に話を聞けばいいのです。



1. 評価しない

【良い・悪いは置いておく】

2. 責めない、怒らない

【なんでそんなことしたの】

3. 指導しない

【いいことを言おうとしない】

こんなふうに言葉を返してほしいな。

「なるほどね。」
「おもしろい考えだね。」
「それは大変だったね。」
「どうしてそう思うの？」
「どうしたらいいと思うか考えを聞かせて。」

昔、「あたしんち」というアニメがありました。子どもがお母さんと一緒にお使いに行ったとき、「〇〇ほしい。」と言うと「だめ。」と言われました。魚屋さんで「お母さん、あの赤い魚、...」と話しかけると「買わないよ！」と強い口調で一蹴。子どもが「きれいだねって言いたかっただけなのに。」ってしょんぼりするシーンがありました。ああ、これやってるよって胸が痛くなりました。まだ話し終わってないのに、思い込みで怒る。子どもにどれだけ悲しい思いをさせたのだろう。話は最後まで静かに聞く、話す前から眉間にしわをよせない。一緒に頑張りましょう！

私たちは子どもに「今日、何があったの？」とよく聞きますが、自分から話すことは少ないですね。子どもが安心して話すには、まず大人から話しましょう。子どもは親の失敗話が大好きです。失敗談を聞いたからといって、子どもは親を馬鹿にはしません。逆にほっとするものです。失敗は誰にでもあるもの、笑い飛ばしてもいいし、そこから何か学べばいいんだと学習できます。

私は真冬に池に2度も落ちた話や財布をトイレに落とした話、携帯電話を冷蔵庫に入れて3日も気が付かなかった話、友達の秘密をつい他の人に話して信頼を失った話など、いろいろ話します。すると、子どもから「こんな失敗したことない？」と聞いてきます。何かあったんだなと思いつつ、話してみたいと思ってくれた気持ちに、とても嬉しくなります。